

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

【すすんで みんなで れいをつくして がんばりつづけて おもいあって かがやきつづける すみれっ子】
豊かな人間関係の中で一人ひとりが自分のよさを十分に発揮し、互いに高め合い認め合う子を育てます。
○互いの考えを認め合い、自分の考えを表現し、課題解決に向けて粘り強く取り組むことができるようになります。(知)
○いろいろな人とすすんでかかわり合い、思いやりの気持ちや礼儀を大切に行動できるようにします。(徳)
○自他の身体を大切に、自ら進んで心と体の健康づくりに取り組むことができるようになります。(体)
○すみれのまちの一員として地域社会を知り、自ら役に立つために行動できるようにします。(公)
○さまざまな人とコミュニケーションをすすんでとり、多様な考え方を尊重できるようにします。(開)

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

自分づくりに関する力
言語能力

具体化した資質・能力

○身近な語彙や感情語彙の豊かさ ○相手の思いを受け止めて聞く力
○他者と伝え合う中で、自分の考えを深化させる力 ○意思決定力、

中期取組目標

○いろいろな人との豊かなかかわり合いを通して自分や他者のよさを理解し、自分の思いをいきいきと表現できる子を育てます。
・対話的な学び、体験的な学びなどを通して、主体的に友達と学び合い、自分の考えを表現し、深めていけるようになります。
・交流活動や体験活動を重視し、互いに認め合う心や自尊感情、自己有用観を高め、自信をもてるようになります。
・児童理解に基づいた児童指導を全教職員の共通理解のもとに進め、迅速・正確・丁寧に対応し、問題の早期発見、早期解決に努めます。
・学校運営協議会、地域学校協働活動【ピオラ応援団】、PTA組織を運動させ、地域、学校が一体となって児童の健全育成に努めます。

学力向上アクションプラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (授業改善) and 具体的取組 (①資質能力ベースの分析から、課題を明確にし、分ける授業、楽しい授業を行い児童の主体的、対話的で深い学びを引き出す。②各教科共、ICTの活用を積極的且つ効果的に行う。③本時のめあてを導入において明確に提示し、終末において振り返りを必ず行う。④授業研究会を計画的に行い、指導技術の向上を図る。)

学力向上に関わる本校の状況

学力学習状況調査の結果は、下のグラフのとおりである。
学習意識や生活意識にはばつきがみられるので、各学年で特徴を分析、発達段階に応じた授業改善や学級経営につなげていく必要がある。
児童自身による振り返りによれば、学習に対する子どもたちの意欲は高く、人とかかわって学習することや、GIGA端末を使った新しい形態の学習活動が好きである。一方で、自信をもって発表したり、意見を交換したりすることが苦手だと感じている児童が少なくない。基礎・基本の定着が不十分であったり、そこから自信をもって活動に取り組めなかったりする場合など、個に寄り添いながら授業改善を目指していきたい。低学年から高学年への成長の中で、達成感や認め合う経験、成功体験の積み重ねが自己肯定感の高まりにつながると考え、自己肯定感の高まりが次の学習活動をより高めることができる。互いに認め合い、学び合っていく活動を重点的に取り組んでいく。

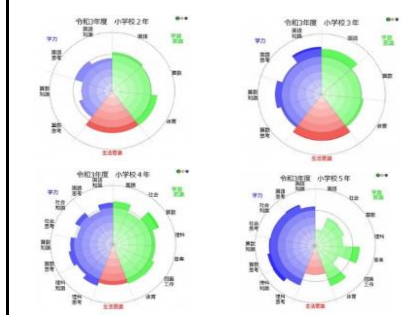


Table with 2 columns: 今年度の目標 (主体的に自分の思いを表現し、互いの考えや自らの学びを活かして、自分の考えを深めていく児童の育成)

Table with 2 columns: 上半期 (低学年においては、友達の考えを聞き、理解しようとする態度を養うこと、目的意識・相手意識をもって主体的に表現できるような場面を学習に位置付けるようにする。), 下半期 (低学年においては、1年生では、友達の考えを聞き、認めようとする態度を養い、目的意識・相手意識をもって主体的に表現する場面を学習に位置付ける。)

豊かな心の育成推進プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (人権教育) and 具体的取組 (①異学年交流を通して、思いやりの心を育み、自他を大切にすることを意識を高める。②児童委員会や学校保健委員会等を通して、児童が主体的に課題解決に取り組む活動を行う。③人権週間を位置づけ、児童一人ひとりが大切にされていると感じる活動とする。)

豊かな心に関わる本校の状況

(1)豊かな心に関わる児童の実態
落ち着いた生活環境にあり、児童は落ち着いて学習に取り組み、友達とも仲良く活動しています。また、素直で物事を前向きにとらえ、よく努力しています。その反面、自分から考えて行動せず指示を待っている様子が見られたり、コミュニケーションの不足から友達関係がうまくいかなくなったりすることがあります。
(2)これまでの学校の取組状況
これまで本校では大きく四つの取組を行ってきました。一つ目は、YPアセスメントの実施です。年2回YPアセスメントに取り組み、各学級のデータや分布図を職員間で共有しました。情報共有の中で、気になる児童については、個別に面談を行い、児童が安心して自分の思いを表現できる場を設定しました。二つ目は、横浜プログラムの実施です。YPアセスメントのデータをもとに、学級風土作りに必要なプログラムを選択して取り組み、誰もが安心して過ごせる学級づくりを目指しました。三つ目は、職員への人権研修の実施です。校内で人権研修を行い、教職員一人ひとりの人権意識を高められるようにしました。四つ目は、人権週間の取組です。低・中・高ブロック毎のテーマに関連した題材に取組み、全校児童の人権感覚・意識を育成してきました。

Table with 2 columns: 今年度の目標 (いろいろな人との豊かな関わり合いを通して、自分や他者のよさを理解し、自分の思いを表現できる子を育てます。)

Table with 2 columns: 上半期 (○道徳教育の要となる「道徳の時間」の指導を通して、子どもが自己を深く見つめ、よりよく生きようとする道徳的実践力を身につけられるようにします。), 下半期 (○あたたかい言葉や心の健康についての理解を深め、自分や他者を大切にしようとする心情を育みます。)

健やかな体の育成プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (健康教育) and 具体的取組 (①安心・安全を第一に、新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた意識を高める取組に努める。②一校一実踐運動に年間を通して取り組み、コロナ禍にあっても持続可能な体力向上を目指す。③養護教諭、調理員、栄養職員と連携し、心と体の成長、食育に関する授業の充実を図る。)

健やかな体に関わる本校の状況

(1) 体育・健康に関する実態
本校の児童は、休み時間になると大半が校庭へ出て体を動かして過ごしています。学校体育の時間を除いて運動する児童や休日の運動クラブに所属している児童に関しては、市の平均よりも多いです。これらことから、運動の時間は確保されていると言えます。しかし、近隣の公園でできる遊びが限られていることや、高学年になると熱いと感じる児童が多いことなどから、体を動かす習慣が身に付いているとは、言い難いのです。そのため、よく体を動かす児童とそうでない児童の二極化が見られます。
また、睡眠を十分にとり、朝食をしっかりと摂るなどの規則正しい生活を送ることができる児童は多いです。しかし、朝食を摂らないことが日常化している児童もいます。
(2) 体力の概要と要因の分析
新型コロナウイルス感染症の影響により、校庭で体を思い切り動かす運動が制限される時期が続いていたため、児童の体力は減少傾向にあるとみられます。「疲れた」「眠い」などと嘆く児童が多く、体力・持久力の低下が顕著に表れています。
また、スマートフォンやゲームなどを使用する時間が長く、就寝時刻が遅い児童が増えています。そのため、翌日の学業に支障をきたしたり、遅刻や欠席に繋がる場合もあります。

Table with 2 columns: 今年度の目標 (めざせ体力・健康アップ！ ～心も体も元気にすごそう～)

Table with 2 columns: 上半期 (①運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、主体的に課題解決する力を育みます。), 下半期 (①すみれ運動会では、児童一人ひとりが目標をもって取り組み、友達と協力しながら活動できるようにします。)